

平成30年11月16日(金)

学校は一つの光、一つの勇気

2月16日の朝日新聞の読者コーナー「声」にこんな文章が載りました。東京都の斎藤さんという13歳の中学生の文章です。

授業で先生から「学校とはあなたにとって何ですか。」と聞かれました。すぐ思いついたのは誰もが口にする「勉強する場所」でした。でも私は「自分が成長する場所」だと思えるようになりました。

学校で先生と接したり友達をつくったりすることで、人との関わりが増え、いろいろな感情が生まれていきます。「楽しさ」「喜び」「怒り」「さみしさ」。

感情はとても大事なものだと思います。勉強する上でも、そして社会で生きていく上でも。学校生活の中で感情を知ることは、自分が成長することなのです。

学校で人と触れ合い、楽しくて笑顔がある毎日を過ごしたいです。学校とは私にとって一つの光であり、一つの勇気でもあるのです。

なんとまあ、驚きました。こんな素敵な文章が書けるなんて素晴らしいことです。

話は変わりますが、吹奏楽部の部長は、部員の誰よりも早く登校し、ピークスのカギを開けるのです。3年生の飯田部長は欠かすことなく1年間その役目を全うし、10月23日からは、新部長の2年生の佐久間君が役目を引き継ぎました。

朝、駅に向かい始める6時50分ごろには、八幡神社の前ぐらいを通過していきます。来年のための布石は始まっているのです。

中間考査が終わりました。「学校は一つの光であり、勇気である」という言葉を胸に秘め、今日も頑張っていきましょう。